

棟方志功記念館

# 板極道

ばんごくどう

冬の展示



手に負う者達々の籠 1968年

2023年12月19日(火) - 2024年3月31日(日)

開館時間: 午前9時30分～午後5時 休館日: 月曜日(祝日及び1月22日、29日は開館)、12月29日-1月1日  
観覧料: 一般550円(450円)、学生(専門含む)300円(200円)、高校生200円(100円)、小中学生無料 ※( )は20名様以上の団体



# 板極道

ばんごくどう

冬の展示

棟方志功の自伝『板極道』。この中で棟方は、武者小路実篤の「この道より我を生かす道なし、この道を歩く」ということを板画の道として進む心のことばにしたと語り、なんとかして道を極めるところの極道に近づきたいとしています。ゴッホの絵を見て画家を目指し上京するも次第に油絵の在り方に疑問をもち始めた棟方は、「洋画でいう遠近法をぬきにした、布置法による画業を見出したかったのです」と若い気焰をもやしたて、ゴッホが高く評価した日本の木版画へと目を向けます。この布置法とは全体の構成をモチーフの配置によって考えることで、遠近法を使う油絵では伸び悩んだ棟方ですが、平面芸術の版画に転向してからは視力の弱さをカバーできる対象の模様化という独自の表現方法を生み出すなど、天性のバランス感覚とデザイン力が追い風となって躍進していきました。1942年には“版画”を“板画”とよぶことを宣言し、自らの道を切り開いていきます。作品の大きさ、連続性、複数性、彩色方法などで版画界の常識を次々と打ち破り、版画の地位向上のため奔走した棟方は戦後1955年、1956年、2年連続で国際美術展の最高賞を受賞し、日本の木版画で世界に名を馳せます。国内ではメディアへの露出や本の装幀など身近なところでも親しまれるようになるほど活躍し、また、本業の板画で奮闘するからこそ倭画、油絵、書などその他の制作も生涯楽しみました。そして1970年に文化勲章を受章すると、その功績を称えられ愛してやまない故郷青森に棟方志功記念館が建設されました。

最晩年に撮影された記録映画「彫る 棟方志功の世界」は最後、棟方の豪放な言葉で締めくくられています。「終わりも始まりもないですよ。世の中。大丈夫！永劫だ！」棟方の作品が時代を超えて広く愛され続けることを願って、生涯の芸業を展観いたします。



《皇座の花嫁》貴女行路 板画 1930年  
妃女版画集『皇座の花嫁』のうちの一枚。初期の数少ない多色摺り版画。



伊豆・大島シリーズ《湯ヶ島眺望図B》油絵 1974年  
現実の色を活かすものは油絵、板画は白と黒を生かしていく。



《ベートーベン・チェアの欄》板画 1974年  
4度目のアメリカ滞在中に制作した最後の木板画。



《達磨図》明歴々露堂々 板画 1975年  
最晩年入院中に繰り返し描いた「転んでもすぐ起き上がる」達磨の絵。

● 学芸員によるギャラリートーク **申込不要** **要観覧券**

[ 日 時 ] 毎月第1、第3水曜日 14:00～30分程度

[ 会 場 ] 棟方志功記念館展示室



Murakata Shiko Memorial Museum of Art

## 交通のご案内

新青森駅 から	・南口より市営バス①のりば「東部営業所」、「県立中央病院前」行きへ乗車(約25分)、「堤橋」下車、徒歩10分 ・タクシーで約20分
青森駅 から	・東口より市営バス③のりば「横内環状～青森駅」、「中筒井経由昭和太仏」行きなどへ乗車(約15分)、「棟方志功記念館通り」下車、徒歩4分 ・東口より市営バス②のりば「国道経由東部営業所」へ乗車(約12分)、「堤橋」下車、徒歩10分 ・タクシーで約15分
自動車	・青森自動車道 青森中央インターから約15分

